



国際ロータリー 第2550地区



宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長

細谷 俊夫

幹 事 伴

誠

会報・雑誌委員長

床井 光雄

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3068号 2024年11月5日(曇り) 第18回例会 会員数99名

ハイブリッド例会

点 鐘 細谷会長
司 会 副SAA 飯村会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

◇本日のランチ スープ 牛ロースグリル和風ソース
サラダ デザート ライス

ビジター紹介

片嶋副会長

◇来訪ロータリアン

2名(1クラブ) 累計26,655名

氏家RC 小菅 彰之様 新井 陸晃様

◇さくら市市民活動支援センター「さくらいふ」
ボランティアコーディネーター 米山 百桃誉様(卓話者)

会長挨拶

細谷会長

皆さん、こんにちは、今日は津波防災の日です。平成23年の東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸を襲った津波によって多くの人命が失われました。これを受けて、津波から国民の生命を守ることを目的に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、その中で毎年11月5日が「津波防災の日」と決められています。嘉永7年11月5日(新暦1854年12月24日)、紀伊半島から四国沖を震源としたM8とされる安政南海地震が発生。南海トラフのひとつに数えられる大地震の影響で、海岸から数km離れた内陸の南海道や東海道にまで大津波が押し寄せました。その際に、紀伊国広村の濱口梧陵氏が、稲むらに火をつけて暗闇の中で逃げ遅れていた人たちを、高台に避難させ命を救い、村民のために尽力した、との逸話が残っており、この逸話をもとに小泉八雲氏が、「稲むらの火」A Living Godという物語を執筆。後に小学校の教科書にも掲載されたことにちなんで、訓

戒の念とともに記念日として制定されております。また、このエピソードを知った国連が同じ理由から世界津波の日として、国際デーの一つとしても記念日を制定しています。

今日の卓話は、さくら市市民活動支援センター「さくらいふ」の米山百桃誉様で、「なんじゃもんじゃフェスティバルについて」の卓話をいただきます。米山様、よろしくお願いいたします。



幹事報告

伴幹事

◇ロータリーレート 11月は1ドル153円。

◇12月1日の地区大会にご参加の方は返信を。

◇11月8日、地区大会記念ゴルフ大会が鹿沼カントリー倶楽部にて開催。当クラブ6名参加。



委員会報告

◇親睦委員会

中村委員長

<誕生祝い・11月>

会員誕生

青木 格次、船田 元、飯山 丈晴、
小林 弘治、駒場 洋助、松山 栄、
佐々木 正、谷田部 修

各会員

夫人誕生

秋元 吉博、平野 利一、石田 裕之、
菊池 信寿、松本 弘元、中山 靖之、
野口 忠男、尾野崎孝夫、轟 宗雄
各会員の奥様

◇社会奉仕委員会

塚越委員長

11月24日(日)、バンバ広場清掃奉仕活動を社会奉仕・青少年奉仕・ローターアクトの3委員会共同で実施。今年の本殿回りも清掃。



卓 話

「なんじゃもんじゃフェスティバルについて」
さくら市市民活動支援センター「さくらいふ」



ボランティアコーディネーター 米山 百穂様
皆様、こんにちは。本日は、「飛び込んで走り抜ける多文化共生とインクルーシブ社会そしてその先へ」ということでお話させていただきます。

－ パワーポイントにて説明 －

※はじめに、栃木ベトナムフェスティバルの写真、ベトナムから招待されてハノイに訪問した時の写真、チリ人の友人でインフルエンサーの写真の紹介・説明がありました。

私が何者か、とご興味を持っていただいたところで自己紹介です。私は、大学卒業後、証券会社の営業部門に7年間勤め、主婦になってから宅地建物取引士の資格をとったりしました。現在、市の職員としてボランティアをサポートする仕事をしております。また、「なんじゃもんじゃフェスティバル」のトータルプロデューサー兼アートディレクターもしております。それ以外にボランティアとして外国人の方のサポートを10年位やっていて、団体を設立してから6年目になります。このボランティアの2024年の状況を簡単にご紹介すると・ベトナムの方達と家族ぐるみのお付き合い・インドネシアの方に行政文書の読み方を教えたり浴衣を着せてあげる・消防団に入りたいタイ・中国・マレーシアの女性に消防団長や市の職員の担当者、引き合わせ・ドイツの方のホストファミリー・産後の相談を受ける等、いろいろな国の方と常に生活しております。また、那須塩原市にある大恩寺（ベトナムの技能実習生の駆け込み寺と言われている）でもお話をいただき、外国の方との交流を深めております。

こういった、これまでの外国の方との活動で一つ分かったことが、体感とか経験を通じて人の心が変わる、ということです。「なんじゃもんじゃフェスティバル」で、その国の食べ物を食べたり、一緒にテントを設営する等の交流があって、はじめて人の心が変わると思い、フェスティバルを開催しています。「さくらいふ」に入った1年目に

開催、1回目は1,000人超、2回目は1,700人程度、本年11月17日には、同じ会場の中でF1のショーカーもあり、3,000人位が来るのではないかと考えています。このフェスティバルの何が凄いかというと、参加する市民の方の熱量が非常に高いということです。私たちは、とことん話し合いをして、やりたいこと、思い描いていることのサポートをしています。また、マッチングとって、この団体とこの団体が一緒になるといいのでは、というコラボの提案をさせていただいています。例えば、アフリカの音楽をやっている方とヒップホップのダンスの子供たちのジョイント、そういう面白いことをやることによって、市民の方々の熱量がすごく上がります。それぞれの個性を尊重し合って、大人も子供も楽しんで欲しいという信念、性別・国籍・人種・社会的地位・障害のあるなしに関わらず、人と人が出会い、繋がりを持つことで生まれる何かが、社会を優しく、未来をワクワクさせてくれるという信念、この信念に沿ってこの3年、運営してまいりました。おかげさまで協賛スポンサーは今年35社集まりました。ロータリアンの方々からも多くの協賛をいただいております。

よく、行政の皆さんに、「なんでここまでやるの」と言われます。単純に、自分の力でどこまで飛べるかやってみたかった、ということです。現在私という人間は、外国人の代弁者として、また、企業・行政・市民のハブ、マッチングとして、社会において機能していると考えています。「なんじゃもんじゃフェスティバル」は、ただ単に楽しいお祭りではなく、縦割りの社会を混ぜこぜにする耕運機のようなシステムになっています。体験、体感で人間関係を変えていきます。こういったことをすることによって、企業と市民、行政と企業、外国人と企業等、予想外のマッチングもできるようになります。新しい人との繋がりに感謝されることが、今とても多いと感じています。外国人は今後、地方経済のキーマンになると思っています。地域の中で日本人と同じように、同じコミュニティで生活できることが、外国人の方にとって非常に大切なことで、また、外国人に選んでもらうということが、これからの地方には大切なことではないかと考えています。

今後ですが、「水は方円の器に随う」という言葉がありますが、社会情勢に応じて自分自身を水のように変化させていきたいと思っています。今のような社会情勢で外国の方がどんどん増えてきた時、私の持っているスキルが非常に重要になってくると思います。人と人を繋ぐということはAIではできないことですので、そういったことを社会で役立てていきたいと思っています。